

大学生の不正コピーに関する意識調査と分析

Analysis of Survey Student Attitudes toward Illegal Copy of Reports

東 るみ子^{*1}, 勝谷 紀子^{*2}

Rumiko AZUMA^{*1}, Noriko KATSUYA^{*2}

^{*1} 日本大学商学部

^{*1} College of Commerce, Nihon University

^{*2} 青山学院大学社会情報学部

^{*2} Department of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

Email: azuma.rumiko@nihon-u.ac.jp

あらまし: 世界中のあらゆる情報がインターネットを介して簡単に入手できる現在、大学におけるレポートや論文での剽窃が増加し、学生の情報倫理観が問題となっている。本稿では、大学生を対象に、「コピー問題」に関する小論文の作成とアンケートを実施することで、学生の倫理観を定量的に分析することを試みた。従来のアンケート調査だけでは分からない不正行為に関する意識を明らかにする為に、テキストマイニングと統計的手法を用いて分析を行い、考察を行った。

キーワード: 不正コピー, 情報倫理, テキストマイニング, 大学教育

1. はじめに

大学の授業で課されたレポート課題や論文における無断転載、剽窃など、大学生の情報モラルの低さが問題となる事例が多発している。

IPA(情報処理機構)の2014年度の調査⁽¹⁾によると、「閲覧したサイトの見出しやホームページに記載された文章をコピーして利用した経験」の有無は、各世代の中で20代が最も多いといった結果が示されている。現在の大学生にあたる10代から20代の人々は、早い段階からインターネットが身近にある環境で育っており、また近年のスマートフォンの普及により、情報を簡単に入手、コピーできることが当たり前となっている。

そのため現在多くの大学では、初年次教育や情報リテラシーの授業を通して情報モラル教育を行っており、その中でレポートの書き方やどのようなケースが剽窃にあたるのか等を教えている。しかしながら、適切な引用を用いてレポートを作成する学生は少なく、多くはどこまでが引用でどこから剽窃になるのか分からないケースや、剽窃と分かっていても「楽だから」「良い点をとりたいから」などの理由でコピー&ペーストをしてしまうケースが見受けられる。その中でも我々は、後者の分かっているのにやってしまう行為こそが従来の情報モラル教育では解決が困難な問題だと考えた。

そこで本研究では、情報モラル問題、特にレポートや論文の剽窃(以下コピーとよぶ)問題に関して、大学生に小論文を書かせ、かつアンケート調査を実施することで、それらのデータを分析し、大学生の情報モラル観の実態を調査することにした。

2. 調査方法

2014年4月に、首都圏の大学に通う大学1年生から2年生217名に対して、必修科目の授業時間を利用

用して情報モラルに関する小論文(テーマはSNS問題またはコピー問題のいずれかを選択)を書いてもらった。217名中46名の学生がコピー問題をテーマに選び、小論文を提出した。

[コピー問題に関する小論文課題の内容]

現在メディアで頻繁に取り上げられている論文不正問題では、論文の一部に他の論文やウェブサイトからコピー&ペーストした部分があることが明らかとなった。なぜコピー&ペーストをしてはいけないのだろうか。また、コピー&ペーストを防ぐにはどのような対策が考えられるだろうか。

小論文の文字数の制限については、1000字程度と教示した。

次に、その217名を対象にコピー問題に関するアンケート調査を実施した。アンケートはブラウザ上で回答できるWebアンケートフォームを用いてLMS上で実施した。コピー問題に関わる質問内容を下記に示す。

[コピー問題に関するアンケートの質問項目]

Q10. レポートでコピーだとばれなければ、あなたはコピーをすると思いますか。

Q11. レポートだけでなく、論文やブログの記事など、様々な文章に関して無断盗用やコピーが広まっています。その理由は何だと思われますか。

Q10とQ11以外の質問には、学生の属性情報に関する質問やSNSの利用状況、SNSにおける問題行動などが含まれており、本稿ではコピー問題に関して考察を行うため、今回は上記の2問に限定をして分析を行った。

3. 大学生のコピペ問題に関する意識

小論文課題とアンケートの自由記述回答について、大学生のコピペに対する意識を調査するために、テキストマイニングツール KH Coder⁽²⁾を用いて分析を行った。

3.1 小論文課題の分析

46 名の小論文を対象に、頻出単語（出現回数 15 以上の語対象）について共起ネットワーク分析を行った結果を図 1 に示す。

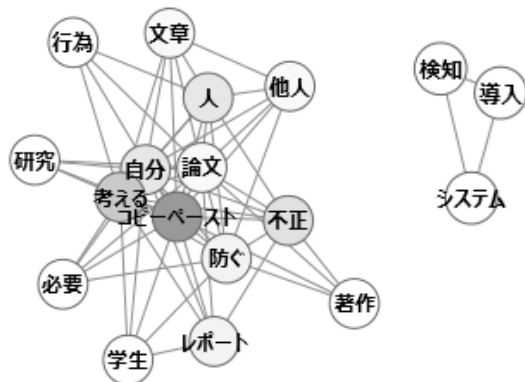


図 1 小論文の頻出単語における共起ネットワーク

共起ネットワークの中心は「コピーペースト」という単語になり、「不正」「防ぐ」「論文」などの多くの単語とネットワークを有している。今回の小論文では、レポートのコピペ問題よりも、世間で話題となっている研究や論文の不正、いわゆる事例について言及する内容が多くを占めた。また、「システム」「検知」「導入」の単語が繋がっていることから分かるように、解決策としてコピペを検知するシステムの導入を提案する内容も見受けられた。

3.2 アンケート調査の結果

アンケートの Q10 に対する回答結果を表 1 に示す。1～4 の選択肢はいわゆる剽窃にあたる行為に相当する。41%の学生が、教員が分からなければこれらの行為をすると答えている。

次に、学生がコピペに対してどのように感じているのかを知るために、Q11 の自由記述の回答文の中でどのような形容詞が多く使われているのかを分析した。表 2 に形容詞の頻出単語上位 10 件を抽出した結果を示す。表 2 から、学生がコピペをする理由の一つとして、「簡単」「便利」「容易」「手軽」といったデジタルコンテンツ特有の複製の容易さが挙げられていることが分かる。また、「多い」「良い」の形容詞は、「インターネット上の情報量が多く、文章の内容も良い」といった使われ方をしていた。つまり、学生が自身のレポート課題に関する知識が乏しいために、Web 上にある情報や文章を使ったほうが自分で考えたレポートより評価が良くなると考えていることが分かる。そして、「楽」「面倒」「必要」に関しては、「自分で考える必要がなく楽」「面倒くさいから」など課題に時間を掛けたくないという学生の心

理が窺える。最も出現回数の多かった「楽」とよく共起している単語は「コピペ」「引用」「一般」「終わる」などであった。また、「悪いという感覚がない」のような情報モラルに関する知識や認識が低いために行っているという回答もみられた。

表 1 Q10 の質問に対する回答率 (n=217)

	選択肢	回答率
1	全部インターネットからコピペをする	2.3%
2	半分はコピペをし、半分は自分の言葉で書く	8.3%
3	60%は自分の言葉で書くが、40%くらいはコピペするかもしれない	16.1%
4	大半はコピペをするが、表現を直して利用する	14.3%
5	重要な部分だけ引用として利用する	52.5%
6	まったくコピペしようとは思わない	6.5%

表 2 Q11 の回答文における形容詞
頻出単語上位 10 件 (n=216、1 件未回答)

形容動詞	出現数	比率
楽	50	27.0%
簡単	39	21.1%
面倒	20	10.8%
便利	9	4.9%
必要	7	3.8%
多い	6	3.2%
良い	6	3.2%
容易	4	2.2%
手軽	3	1.6%
悪い	3	1.6%

4. おわりに

アンケートの分析の結果から、多くの学生は不正行為だと知った上で剽窃を行っていることが明らかになった。小論文では、事例に対する見解のほか、対策案の内容も含まれており、「コピペを検知するシステム、ソフトウェアの導入」「低学年からの情報モラル教育の実施」「レポート課題のテーマ設定の工夫」などが挙げられていた。

今後、今回のアンケートや小論文に加え、情報倫理のスキルチェック試験の結果など含めてさらに分析を進めていく予定である。そしてこれらの分析結果をもとに、情報倫理教育の取組みの改善を行い、その効果について検討をしていく必要がある。

参考文献

(1) 独立行政法人情報処理推進機構: “2014 年度情報セキュリティの倫理に対する意識調査－調査報告書－”, <http://www.ipa.go.jp/files/000044094.pdf>, (2015.6.8 アクセス)

(2) 樋口耕一: “社会調査のための計量テキスト分析”, ナカニシヤ出版, (2014)